

10
月号

第333号

いっしん

平成24年(2012年)

限りなき
神のみ幸と
かかふりて
今日あることを
忘るるなゆめ
甘本親教会
初代親先生み歌

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-622895 / FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://www7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki



奥津城近くに咲く
白い彼岸花



ご霊前に
供えられた
赤と黄色の彼岸花



霊舎に神籠木を立てる
霊祭を仕える



清々しい
秋空の下
奥津城

秋季霊祭

仕えられる

彼岸花が、今が季節と美しく咲きだした秋分の日、教会では秋季霊祭が仕えられました。

金光教でご先祖の霊様をお祀りされてある教徒の方も、仏教でお祀りされてある信徒の方も、それぞれ先祖を祀る方法は違っていますが、皆天地の間に生かされて生きる神の氏子ですから、春秋の霊祭りを仕え、霊様にお礼申し、お称えお慰び申し上げます。

ご神前で奏上祭が仕えられた後、ご霊前に転座後、加治木教会にご縁のある教徒から信徒のすべてのご霊神様方のみ名を読み上げて、ご霊神様にお礼申し、お称えお慰び申して、親神様のみ恵みを受けられてひとときわ高い位のご霊神となられて、ご安心され、家族親族を守り導く働きがでえられるようお祈り申し上げました。

今秋も教徒・信徒一同、心を尽くしてお仕えさせていただきました。

鹿児島地方・宮崎県連合会 合同

青年のひろば

「青年ふれあいフォーラム」：宮崎での名称

に参加して

上田 和也

9/8~9

今回の「青年のひろば」は、鹿児島地方だけでなく宮崎県の信者さんの方々と合同で開かれました。

第一日目の講師は、熊本県江田教会在籍の荒木りえさんでした。

理学療法士をしておられる三十三才の女性で、若いながらも自分の体験をきちんとよくまとめられはきはきとお話しされることに驚かされました。

荒木さんが中学三年のとき、家族が勧める進学校と自分が進みたいバトミントンができる高校の、どちらに進むかという大切な問題を、一人で教会のお結界で教会の先生に相談されるほど、教会(お結界)や先生が身近な存在・関係であったことをはじめ、大人になられ就職されてからもいろいろなできごとを信心の眼でとらえておられ、私はまだまだ違いがあることを感じました。

第二日目のお話しは、延岡教会の山田圭吾さんと、宮崎県が東日本大震災発生後三ヶ月頃に募集した復興支援ボランティアに参加され、その活動の報告をされました。

山田さんが、ボランティアに行かれた福島県女川町の人たちと、最初は違和感のある関係であったのに、だんだんと理解を深められて仲良くなつて行かれた話を聴いて、やはり



信心をしてある人だな違うなと思わせられました。

また、少年少女会連合本部の復興支援活動報告のビデオDVDも観せていただき、復興ができてきているのは、まだまだわずかでしかないことを知り驚かされました。

第一日目の夜は、バーベキューをして、さらに近くの天文台に行き天体望遠鏡で星空を見ました。

宮崎県の皆さんとは、団体バスでの御本部大祭参拝の行き帰りに一緒に緒させてもらいますが、その時とは

又違った顔を見ることができました。

宮崎県の皆さんは、それぞれがバーベキューなどの準備に積極的に御用されてある姿を見て、これまでこのような行事のときに、私自信がサポートして下さる人に甘えっぱなしであったことを反省させられました。

もう少しレベルを上げてサポートできる、頼りがいのある人材にレベルアップして行かなければならないと思わせられました。

また、開会式後全員に回ってきた自己紹介や、最後にあった全員の一分スピーチでは、自分の順番が来るまでに考えをまとめるのに苦労しました。

そのため、日頃から自己紹介や感話ができるよう、信心を整理してま

とめておくよう心がけていなければならぬと思わせられました。

今回の「青年のひろば」は、吸収する物がたくさんあって良かったと思っています。





今年の「青年のひろば」は、宮崎県の青年会と合同で開催され、宮崎県のラスパ高崎という所で一泊二日でありました。

鹿児島地方・宮崎県連合会 合同
青年のひろば
「青年ふれあいフォーラム」：宮崎での名称
に参加して
9/8～9
矢野 彰子

一日目の講師は江田教会の荒木りえさん。私の十一歳年上の理学療法師をしている方でした。



江田教会(熊本県) 荒木りえさん

教会の隣に家がある荒木さんは、教会家族とは親戚であり、小さい頃から教会で遊び、中学になって部活中心にはなってもお祭りには参拝し、親が喜ぶからお参りをし、そして教会が捌け口にもなっていたそうです。教会にお参りしていて良かったことは、進路で悩んでいる時などにお結界で救われたと聞いて、私は自分が高校卒業する時、そんなふうに来ていたかな？と我に返りました。教会で生活していても、なかなか親には相談しづらかったり、反抗することもありました。でもやっぱり何かあるたびに神様があられるんだ

な、と感じることばかりです。結婚して教会を一步出た自分ですが、自分の子どもにも、荒木さんのようになつてほしいと思いました。

そしてその日の夜はBBBQ(パーベキユー)があり、ここでは宮崎県の若い先生方が声をかけてくださり、お話することができました。私は学院に行かせてもらいたいという思いもあるのですが、学院のことについて聞かせてもらい自分のことを話すと、厳しい言葉をいただきました。自分の考えの甘さもわかりました。まだまだ自分はこのからなんだなと思えました。



少年少女全国会 努力目標 とどけ！！ 元気 勇気 まごころ

末信奉者の方とのご縁をいただき、命を授けさせてもらった私は、これから教会のことをもっとわかってもらいたい、お導びきさせてもらうのが先だと思いました。今回の青年の集いでまた一つ考えさせてもらうことができました。

そして二日目は、延岡教会の山田圭吾さんの東日本大震災のボランティアについて報告や感想を聞き、最後に、少年少女会連合本部の「東日本大震災復興支援活動報告」というボランティアのビデオを見させてもらいました。

まだまだ復興支援が足りないことを聞いて目にし、自分も何かできることはないかという気持ちになりました。自分にできることがあったら、何でもさせてもらいたいです。

今回の「青年のひろば」では、多くのことを感じ、学ぶことができました。体調も優れてなかったためあまり自分から動くことができませんでしたが、宮崎県の青年会の皆さんのおかげですく充実した集い、青年のひろばになったので良かったです。ありがとうございました。

御本部(少年少女会連合本部)

年代別キャンプ に参加させていただいて

矢野芳恵(高一)

8/1~4

今年のキャンプは、御本部まで一人で行きました。

初めての幹線線、初めて一人で御本部まで行くのでとても不安でした。

前泊に参加できなかったため大きいリュックを持って、朝一番の幹線に乗って、博多で乗り換えて福山で降り、金光行きの電車に乗り換えて御本部に向かいました。

金光駅からはキャンプのスタッフさんの車に乗せてもらって御本部に向かい、皆がちょうど御祈念をするなかに合流しました。

アドベンチャーキャンプ(高校生年代)は、ジュニアキャンプ(中学生年代)の時からいる人がたくさんいて、ほぼ顔見知りの人で安心しました。

今年は移動キャンプということで三ヶ所のキャンプ場にお世話になりました。



まず一つ目のキャンプ場は、マイクバスに乗って川沿いの道をずつと登っていき、高梁自然公園のキャンプ場に到着しました。

そこでお昼ご飯をいただき、そのキャンプ場で一泊しました。

今までと違うキャンプ場で使いやすいのは良かったけど、設備が整え

られ過ぎて何か物足りない気持ちもありました。

夕方は二・三人に分かれて、カヌーを膨らまし、準備などをしました。

二日目はさつそく川くだりが始まり、まずそのための訓練を少しし、さつそくカヌーに乗りスタートしました。

自分は、隊長と一緒に漕がせてもらいお昼までに一回だけ、休憩を入れて目的地まで漕ぎました。

途中で色んなグループにハブニングが起こりながら、どうにか事故なく漕ぎ終えることができました。

自分達が使っていたカヌーは鉄の棒に刺さってしまい、穴が開いてしまい、隊長の指示を聞きながらの行動で、沈むのではないかなど色んな焦りがありました。

休憩の間に頑丈なカヌーに替えて、また目的地まで進んでいきました。

途中途中、川でも激しい波があり引っくり返るのではないかと思うくらい強い波もありました。

けど逆に楽しく感じて、自然の力のすごさを感じました。



また、時々石や岩に引つ掛かり、一度だけ鉄に引つ掛かり川の中でカヌーから降りて隊長と持ち運んだり、持ち上げたりお互い協力し合いました。

もし、隊長がいなければ何も出来なかつたことだと思いました。

約三・四時間カヌーを漕ぎ続けやつと目的地に着いたときは達成感がありました。

腕が痛くなつて途中限界と感じることもあつたけど、広い川の中なので誰にも交代出来ないため、やるしかありませんでした。

頑張つた分、自分の力にもなつたと思いました。

三日目はカヌーが足りなくなつたため、前半の部と後半の部で分けて、川を下りました。

今度は波が全然ない川で、二人で息を合わせながら、漕がないと真つ直ぐ進まないような川の流れて女同士で漕いだため、最初は真つ直ぐ進まず川の中で十回以上は回転していました。

段々コツもつかめてきたのか、やつと真つ直ぐ進むことができるようにも出来たけど、やっぱり、二人の息を合わせることはとても大切だと言つことが分かりました。

もし一人だったら、違う方向に行つたとき、何も意見が出ず木にぶつかつたりしていただろうし、後ろの人が方向を調節するため二人で息を合わせるこの大切さを学びました。その日で川下りは無事終了し、夜



は沙美研修所というところへ移動しました。

沙美研修所は昔、四国などから御本部に向かって、船で来た人たちが一泊させてもらって、山の方に大回りをしながら歩いて御本部に向かっていたそうです。

そこに自分達も泊まらせてもらいました。

四日目、最終日は沙美研修所の掃除をしました。皆各自場所を決めて、掃除させてもらいました。

キャンプ最後のお昼ご飯を班の皆で、部屋でいただきました。四日もたてば、班の雰囲気も変わり、にぎやかな班となっていました。

皆で片付けをして、御本部に向けて出発の準備をしました。

本当だったら、昔使われていた山道を通るつもりでしたが、山で蜂など虫が多くて危ないということで、少し違う道で帰りました。

約一時間三十分ぐらい皆で歩き、ただ歩いているだけだったけど色々な会話が交わりいい思い出が出来たと思います。

今年は、何人かリーダーに色々言われて、子供同士でも色んな反論が出ていて、リーダー達に反抗的な態度をとる人もよくいて、どうなるんだろう...など思ったけど、一つの思い出となりました。

来年は、ただ暇だから参加させてもらうだけではなく、しっかりとやる気のある人が来てほしいと言われ

ましたが、色々な貴重な体験が出来ると思っているのでまた参加させてもらいたいです。

最後、色々きびしい言葉を言われていて、来年は人数がどうなるかわからないけど、少しでも多い人数で良い思い出が出来ればと、思います。

一人で金光まで行けるようになったので、来年は自信を持ち、誰か参加すると感じたとき引つ張っていいから良いなと思えました。

来年は今年より良いキャンプであることを期待したいです。



朝の信行より

『天地恩愛』の八十八番を読ませていただきますと次のようなみ教えがあります。

「親神様がひとえに、可愛い氏子のために日夜ご苦労くだされておいでになるといふことがわかり、親神様を中心に考えて、親神様を本としての生活を打ち立て、ご神慮に添い奉り、ご神恩にお応えすることを願いつつ、…神人一致、神人共存共栄の道が開けてくるのが、真のおかけ、しかも、永遠に尽きないおかけで、これがお道の信心…」(安武松太郎師 教語二三四頁)(途中略)

矢野クラ刀自(矢野政美大人 母堂三十三才)のご大患以後の信心姿勢について、故政美親先生は、「親神様の御立場」に立った信心、または「これからは、今日死んだと思つて、少しでも親神様に喜んでいただくような自分になしていただく」ということばで表してあります。

この心境こそ「神人一致、神人共存共栄の道」が開ける瞬間であり、「永遠に尽きないおかけ」の生まれる本いわば信心姿勢ではないでしょうか。

石川啄木の「一握の砂」という詩の中に「いのちなき砂のかなしきよ さらさら」と握れば指のあひだより落つ」というなくだりがあります。

矢野クラ刀自三十三才の頃までは「振り返ってみると、…いわば自己中心的」な信心と省みられてあり、信心生活は何度も奇跡的で不思議なおかけを頂いてありますが、さら

さらと握れば指のあひだより落つ」というように、頂いたおかけが矢野の家に永遠に留まるということはありませんでした。

しかし、ご大患以降に、つかんだもの(おかけ)が「指のあひだより落つ」とこのない信心となられてあります。

そうなるために、「親神様中心の信心生活」「神人一致、神人共存共栄の道」ということの深い意味合いを本気で求める信心の稽を進めて行かねばならないと思います。

(教会長)

あしあと

9月

- 1(土) 報徳月例祭 10時半
- 2(日) 庄村家霊祭
- 3(月) 甘木親教会月参拝日
- 5(水) 6(木) 少連合本部理事会
- 8(土) 9(日) 甘木親教会 信徒研修の集い
- 8(土) 9(日) 青年のひろば
- 8(土) 9(日) 西南ノ信心研修会
- 9(日) 斎掃御用 10時
- 10(月) 斎掃御用 10時半
- 16(日) 朝参拝日 6時生祭堂光 大神様
- " (連)信徒部研修会7時
- 21(金) 斎掃御用 10時
- 22(祝) 月例祭 共励会 併せて
- " 秋季霊祭 10時半
- " 夜の月例祭若者部 20時
- 25(水) オートサービス中園 創業奉告祭
- 29(土) 30(日) 御本部御大祭 参拝

ご霊神様のおまじ

十月

| | |
|-----------|---------------|
| 平地セイ之霊神 | 平成 14. 10. 01 |
| 春山陽子之霊神 | 昭和 56. 10. 06 |
| 中村正行大人之霊神 | 平成 23. 10. 06 |
| 大木千鶴子之霊神 | 平成 16. 10. 07 |
| 上田喜四郎之霊神 | 平成 03. 10. 08 |
| 中野綾子之霊神 | 平成 04. 10. 08 |
| 瀬戸淳一之霊神 | 平成 23. 10. 10 |
| 庄村徳二之霊神 | 平成 02. 10. 13 |
| 瀬戸秀雄之霊神 | 昭和 50. 10. 14 |
| 内村 健之霊神 | 昭和 58. 10. 17 |
| 中野満行之霊神 | 平成 12. 10. 18 |
| 春山住晴之霊神 | 昭和 47. 10. 19 |
| 矢野仁吉郎之霊神 | 昭和 30. 10. 26 |
| 福元フサ子之霊神 | 平成 15. 10. 29 |



「ご先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

※十月三日、故矢野サグ子親奥様がお国替えになられましたので、十月十日以降になって、旬日祭等を加筆いたしております。

十一月十一日(日) 十一時
加治木教会 前日御用奉仕
生神金光大神御大祭奉仕

※「祭典後、講師の先生により」ご教話。

御大祭・記念祭・式年祭

【10月】

21(日) 泉田教会 小嶋明敏大人 三年祭
28(日) 上荒田教会 85年記念祭 11時

【11月】

4(日) 東郷教会 90年記念祭 11時
" 西鹿見島教会 115年記念祭 12時
11(日) 加治木教会御大祭 11時
18(日) 志布志教会 85年記念祭 11時
" 鹿見島教会御大祭 11時
25(日) 高千穂教会 55年記念祭 11時

十月二十八日〜十一月九日

御大祭前信行期間

ご祈念・研修 午前五時二十分・午前十時
ご祈念のみ 午後四時・午後九時

教会行事

10月

1(月) 報徳月例祭 10時半
" 併せて 教祖御生誕祭
7(土) 中村家霊祭
8(祝) 校区公民館運動会
9(火) 斎掃御用 10時
10(水) 生神金光 月例祭 10時半
13(土) 十日祭(矢野サグ子 大刀良)
14(日) 人吉教会御大祭 11時
20(日) 斎掃御用 10時
21(日) 朝参拝日 6時
" 泉田教会 小嶋明敏大人 三年祭
22(月) 月例祭 共励会 13時半
" 二十日祭(矢野サグ子 大刀良)
" 夜の月例祭(若者・墨勤 務者向け) 20時
28(日) 上荒田教会布教 85年記念大祭
31(水) 斎掃御用 10時
若婦人会 13時半(未定)
少年少女会 青年会 若婦人会は 都合により日程の変更や、決まりましたし、連絡することがあります。

十月三十一日(日) 午前六時

朝参拝日 毎月 第三日曜

家族そろっておかけを蒙らせて
いただくことを目標にしましょう。

11月

1(木) 報徳月例祭 10時半
" 三十日祭(矢野サグ子 大刀良)
4(日) 東郷教会開教会 90年記念大祭
" 西鹿見島教会 115年記念大祭 12時
9(金) 斎掃御用 10時
10(土) 生神金光 月例祭 10時半
" 二十日祭(矢野サグ子 大刀良)
" 加治木教会御大祭前御用奉仕
11(日) 加治木教会御大祭 11時
15(木) 連合会執行部会(教会) 10時半
18(日) 朝参拝日 6時
" 鹿見島教会御大祭 11時
" 志布志教会布教 85年記念大祭
21(水) 斎掃御用 10時
22(木) 月例祭 共励会 13時半
" 夜の月例祭(若者・墨勤 務者向け) 20時
25(日) 高千穂教会布教 55年記念大祭
30(金) 斎掃御用 10時

12月

1(土)月例祭 併立教記念祭 新穀感謝祭

加治木教会 バンド練習会

毎週 金曜日 夜七時半からの予定です
来年六月十六日(日)加音ホール小ホールで
連合会教祖百三十年大会が開かれます。
みんなで発表できるように練習しましょう。